Attracting Tomorrow &TDK



2022年3月期 連結業績見通し

代表取締役社長 石黒 成直

2021年3月期通期決算説明会

◎ TDK株式会社 • 2021 広報グループ • 2021/4/28 • 1

石黒でございます。私から2022年3月期の見通しについてご説明します。

2022年3月期 通期見通しのポイント

Attracting Tomorrow &TDK



●市場予測

- ¬世界経済はマイナス成長からプラス成長へ(W/W:-3.3%/FY2021 → 6.0%/FY2022)
- ¬米中対立、コロナ禍のリスクは残るが、ワクチン接種や経済対策により生産活動は継続回復
- ¬自動車、スマートフォンは前期比プラス、PC・タブレットも前期同水準の生産を予測
- マモビリティの電動化、再生エネルギーへの転換促進により、ハイパワーニ次電池の需要拡大

DX・EXの潮流が加速、その潮流をしっかり捉えるためアクセルを踏む年 中核事業の更なる成長に向けた積極投資と組織・体制の整備を実行

:二次電池(パワーセル事業本格立上げ、インド市場拡大)

受動部品(xEV、ADAS、5G関連製品の生産能力拡大)

ヘッド・サスペンション(新技術市場投入、サスペンション応用製品拡大)

センサ事業:これまでの拡販施策の成果を積み上げ、収益を大幅に改善

¬組織・体制:アンテナ機能強化(コーポレートマーケティング機能新設)

Time to Market短縮(製販一体ビジネスカンパニー) モノづくり力向上、サステナビリティマネジメント

株主還元

¬配当予想を10円増配し、年間190円に

2021年3月期通期決算説明会 © TDK株式会社・2021 広報グループ・2021/4/28・2

まず、見通しの前提となる市場の見方についてご説明します。2021年3月期において、コロナ禍により世界経 済はマイナス成長を余儀なくされましたが、2022年3月期は6%レベルのプラス成長を前提としています。地政 学的なリスクやコロナ禍によるリスクは残りますが、自動車やスマートフォンについては前期比でプラス、在宅 需要で高水準となったPC・タブレットも、前期から大きく落ち込むことはないと見ています。また、モビリティの 電動化や再生エネルギーへの転換等によりEXはさらに促進され、関連する受動部品や二次電池の需要を押 し上げると考えています。

2022年3月期はこうしたDXやEXの流れをしっかりとらえ、大きく社会に貢献するためにアクセルを踏む年であ ると認識し、中核事業のさらなる成長に向けた積極投資を進めていきます。主要事業である二次電池におい ては、パワー系二次電池の本格的な立上げと、中国外の市場に対する重要拠点としてのインド生産の着実な 立上げを実現します。5Gや自動車需要が大きく見込める受動部品においては生産能力拡大のための投資、 ヘッド事業については、マイクロ波アシスト記録と熱アシスト記録ヘッドへの技術転換をチャンスと捉え、技術 ならびに生産投資を実施していきます。センサ事業については、これまで地道に継続してきた顧客ベースの拡 大と商品ラインアップの拡充がやっと成果として表れるようになってきましたので、2022年3月期は収益を大き く改善したいと思います。

また、成長を実現するための組織と体制の改革・整備を実施し、Time To Market、Time To Volumeを短縮し 、社会により大きな価値をお届けする体制を目指します。具体的には、コーポレートマーケティング機能の新 設、製販一体のビジネスカンパニーの運営、デジタルテクノロジーを活用したモノづくり力の向上を目指します 。社会の課題解決に貢献し、企業の透明性を担保するためのサステナビリティマネジメント、ガバナンスの強 化にも引き続き最重要テーマとして取り組んでいきます。

株主還元については、収益の拡大に合わせて10円増配し、年間190円とすることを想定しています。

2022年3月期の市場予測



Production Trend (Unit: Mil. unit)	FY2021	FY2022 (Y o Y)	
Automobile*	79	83 (+5%)	
therein xEV	5.7	6.9 (+21%)	
Smartphone	1,349	1,369 (+1%)	
therein 5G Smartphone	300	470 (+57%)	
HDD	250	243 (-3%)	
therein Nearline	61	64 (+5%)	
Notebook PC	214	212 (±0%)	
Tablet	165	157 (-5%)	

^{*}Automobileは商用車を含む台数

2021年3月期通期決算説明会

◎ TDK株式会社 * 2021 広報グループ * 2021/4/28 * 3

次に、TDKの関係する主要なデバイスの需要前提についてご説明します。自動車については、商用車を含む 2022年3月期の市場規模を8.300万台、前期比でプラス5%を前提としました。前期第2四半期以降急速に需 要の回復が進み、足元ではコロナ禍前の水準まで回復していますが、自動車用半導体不足による自動車の 生産調整も発生してきており、今後とも需要動向の見極めが大切だと感じています。各国自動車メーカーにお ける環境車へのシフトは加速しており、xEVの市場は21%の増加を前提としました。

一方ICT市場を代表するスマートフォンは、13億6,900万台、前期比で1%プラスを前提としました。中国スマ ートフォンメーカーによる高水準な生産が見込まれていますが、中国市場における販売動向も注視しながら受 注状況を見極めていく必要があると感じています。5Gスマートフォンの台数は引き続き拡大し、4億7,000万台 と見ています。

その他、データセンターで使われるニアラインHDDは、HDD市場全体が縮小する中で唯一拡大を継続、また 、在宅勤務・学習で広く利用されるであろうPCやタブレットについては、引き続き堅調に推移する前提としまし た。

総じて堅調な回復が見込まれていますが、今後のコロナ禍の影響や需要の実態に不透明な部分もあり、最終 セットの販売動向を注視しながら生産体制を見極めていく必要があると考えています。

2022年3月期 通期連結売上高増減イメージ

2021年3月期通期決算説明会

Attracting Tomorrow &TDK

(億円)

© TDK株式会社・2021 広報グループ・2021/4/28・4

セグメント 区分	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期予想 (前期比)
受動部品	4,071	+4~+7%
センサ応用製品	813	+22~+25%
磁気応用製品	1,993	+9~+12%
エナジー応用製品	7,402	+8~+11%
その他	511	_
合計	14,790	16,000
為替レート \$/Yen 為替レート EURO/Yen	106.05 123.67	為替前提 105.00 124.00

以上を前提として、全体の売上高は、2021年3月期通期実績に対して約8%増の1兆6,000億円の見通しとしました。

受動部品セグメントは、自動車市場、特にxEV向け需要の増加、5G関連市場向け需要の増加を前提に、4%~7%の増加と見ています。

センサ応用製品セグメントは、自動車市場の需要増加に加え、TMRセンサやMEMSセンサの顧客ベースの拡大と製品ラインアップの拡充効果によって、22%~25%の売上成長を見込んでいます。コンベンショナル製品である温度・圧力センサと車載用のホールセンサは、需要回復によって売上増加が見込まれるのに加え、成長が期待されるTMR磁気センサ、MEMSマイクロフォン、MEMSモーションセンサについては、新規の顧客とアプリケーションの開拓が奏功し大きく成長することを見込んでいます。2021年3月期第4四半期は四半期ベースで最高の売上水準を確保しましたが、その水準を起点とし、新製品の売上拡大と需要増加による販売増加で、高い売上成長が実現できると考えています。

磁気応用製品セグメントは、HDDへッドにおいて、2.5インチと3.5インチドライブの市場がさらに縮小することによりHDD総需要が約3%減少、それに伴いPC向けHDDへッドや3.5インチドライブの受託生産数量も減少する一方、ニアラインHDDの需要が増加することで、ヘッド全体の数量は増加し売上が増加する見通しです。またマグネットについても、xEV用の新規プロジェクトの拡大による増収を見込んでおり、セグメント全体では9%~12%プラスの見込みです。

エナジー応用製品セグメントは、二次電池の販売がスマートフォン市場向けやPC・タブレット向けにおいて堅調に推移することに加え、パワーセルの売上が倍増すること、また電源事業では半導体製造装置向けやインフラ市場の需要が増加、さらにEV電源も承認済み新規プロジェクトの量産開始によって売上を伸ばすことを見込み、全体で8%~11%の増収を見込んでいます。

2022年3月期 連結業績及び配当金見通し





(億円)		2021年3月期 通期実績	2022年3月期	業績予想対前期比	
			業績予想 (2021年4月発表)	增減	增減率(%)
	売上高	14,790	16,000	1210	8.2
営業利益		1,115	1,500	385	34.5
	営業利益率	7.5%	9.4%	+1.9 pt	-
税引前利益 当期練利益		1,219	1,500	281	23.1
		793	1,000	207	26.1
	1株当たり利益(円)	628.08	791.62	-	-
配当金		中間:90円 期末:90円 年間:180円	中間: 95円 期末: 95円 年間: 190円	-	-
為替	対ドルレート	106.05	105.00	-	
	対ユーロレート	123.67	124.00	-	
	固定資産の取得 (設備投資)	2,124	3,000	876	41.2
	減価償却費	1,403	1,600	197	14.0
	研究開発費	1,270	1,400	130	10.2

2021年3月期通期決算説明会

◎ TDK株式会社 • 2021 広報グループ • 2021/4/28 • 5

ご説明した世界経済動向および主要セットの需要予測に基づき、2022年3月期の連結業績をご覧の通り予測 しています。

為替レートの前提は対ドルで105円、対ユーロで124円とし、その結果売上高は1兆6,000億円、約8%の増収 と予測しています。営業利益、税引前利益は1,500億円、当期純利益は1,000億円、1株当たり利益は791円 62銭と見込んでいます。

2021年3月期の期末配当金はすでに発表している通り90円とし、年間配当金180円を予定しています。2022 年3月期の配当金については中間・期末とも95円とし、年間190円を予定しています。

設備投資は3,000億円、減価償却費は1,600億円、研究開発費は1,400億円を見込んでいます。

私からの説明は以上です。どうもありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項



この資料には、当社または当社グループ(以下、TDKグループといいます。)に関する業績見通し、計 画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に 関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を 基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるもの です。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグルー プの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に 異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服

する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。 TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。 TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需 要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスク や要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。 百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額など が1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資 料を参照していただきますようお願いいたします。

◎ TDK株式会社 • 2021 広報グループ • 2021/4/28 • 6 2021年3月期通期決算説明会

